

副理事長方針

副理事長 山崎 登志雄

2008年度に施行された公益法人制度改革に基づき、更なる公益性を求められた2013年度までの制度移行期限が迫ってきております。まちづくり団体として社団法人亀岡青年会議所は、今まで以上に地域社会と密接にかかわり、コミュニケーションをとれるような活動が求められています。そのような中、JC活動の根幹にかかわるメンバーは、近年減少傾向にあるという大きな問題があり、青年会議所の魅力を更に発信をしなければならないと考えます。

亀岡青年会議所にとって公益社団法人格取得が目的でなく、諸先輩方から受け継いだ不変の精神を礎に理念に基づく運動を展開し、亀岡青年会議所の在り方を見失わないように公益社団法人制度改革に対応することが重要です。メンバーの意識統一を図るため公益セミナーを開催し、公益会計基準審査を実施し、本年度、公益社団法人格取得申請をします。

亀岡青年会議所は、このまちの発展になくはならない存在であり「明るい豊かな社会」の実現に向けて、亀岡青年会議所の魅力、歴史、伝統、そしてJAYCEEとしての個の魅力を多くの方々に伝えましょう。メンバーはJAYCEEとしての責任と自覚をもち、計画的な会員拡大の仕組みをとおして、青年会議所だからこそという意識を養い、メンバー一体となって新入会員が基本と自信をもてるよう全力でサポートし、強固な組織力の向上を図ります。

汗をかき一生懸命になっている仲間たちの姿をまちにむけてリアルタイムに発信することはもちろんの事ながら、外部に対しては情報交換の場となることを念頭におき、情報の相互間での共有を目指します。一方的な発信ではなく、多くの意見に耳を傾け、現状を把握分析し、単なる協力体制の構築にならないように、まちから求められる存在である亀岡青年会議所を実現します。また、LOM内部では、メンバーがいつでも活動内容等を確認できることでLOM全体の意識統一、ひいては内部充実の一助になると確信しています。

まちづくり団体として行政や地域、各諸団体の皆様・地域の方々へ亀岡青年会議所を理解していただき、いつも近くで支えていただいているメンバーの家族に感謝をし、活動を温かく見守っていただいている先輩諸兄とJC理念の共有をし、メンバーが一体となって協働によるまちづくりに向け、交流を深めることも大切であると考えます。

2012年度下村理事長の掲げる「だれよりも強くあれ」のスローガンのもと、心穏やかにしながらも、決して揺らぐことのない強い精神をもって、私自身理事長を補佐する立場として活動してまいり所存でございます。また、自分自身の大きな成長を遂げる機会ととらえ、副理事長としての責任を自覚しこの大役に取り組んでまいります。

会員の皆様・先輩諸兄の深いご理解とご協力をお願いし、副理事長方針といたします。